

強化指定選手発掘事業

フレッシュマンキャンプ 2025

< 報告書 >



一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟

JAPAN
BASKETBALL

2025 フレッシュマンキャンプ 報告

<事業概要>

1. 事業名：2025 フレッシュマンキャンプ
2. 事業目的：次世代の日本代表選手の発掘
3. 実施日：2025年9月19日（金）～9月21日（日）
4. 実施会場：清水ナショナルトレーニングセンター 静岡県静岡市清水区山切 1487-1
5. 宿泊会場：同上
6. 参加者

【スタッフ】

| 役職 | 氏名 | 性別 | 所属 |
|------------|--------|----|----------------------|
| 事業担当理事 | 吉田 通子 | 女性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 強化責任者 | 原 美子 | 女性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 男子ヘッドコーチ | 小川 直樹 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 男子コーチ | 吉田 直樹 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 男子コーチ | 大川 達也 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 女子ヘッドコーチ | 一松 優子 | 女性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| 女子コーチ | 花輪 希美圭 | 女性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームドクター | 宮崎 伸一 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームトレーナー | 磯崎 広大 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームトレーナー | 山崎 美和子 | 女性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームオペレーション | 大沼 弘法 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームオペレーション | 関 圭子 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| チームオペレーション | 氣田 陽介 | 男性 | (一社) 日本FIDバスケットボール連盟 |
| サポートプレーヤー | 渡辺 稜* | 男性 | 株式会社パソナハートフル |

【男子選手】

| 氏名 | ブロック | 都道府県 | 年齢 | 所属 |
|-------|-------|------|----|-------------|
| 嶋村 葵 | 北海道東北 | 北海道 | 17 | 北海道小樽高等支援学校 |
| 阿部 凌 | 北海道東北 | 秋田県 | 21 | クラージュ秋田 |
| 石谷 柏太 | 中国四国 | 鳥取県 | 20 | SMILE POP |
| 羽形 大海 | 関東 | 東京都 | 20 | つばさクラブ |
| 関口 大我 | 関東 | 東京都 | 23 | つばさクラブ |
| 徳邑 瑛治 | 九州 | 福岡県 | 19 | 福学クラブ |

| | | | | |
|--------|-------|-----|----|-------------------|
| 谷川 詩彦 | 九州 | 福岡県 | 18 | 福学クラブ |
| 犬走 天 | 九州 | 福岡県 | 18 | 福岡県立特別支援学校北九州高等学園 |
| 白石 涼真 | 九州 | 福岡県 | 16 | 福岡県立特別支援学校北九州高等学園 |
| 三木 悠翔 | 九州 | 長崎県 | 18 | 佐世保 KREIS |
| 安藤 麗希 | 九州 | 宮崎県 | 25 | ブルーホーク |
| 小池 瑛斗 | 東海北信越 | 長野県 | 24 | CHIKUMA NEW HOPES |
| 滝沢 悠太* | 北海道東北 | 北海道 | 18 | SAPPORO RISE |

【女子選手】

| 氏名 | ブロック | 都道府県 | 年齢 | 所属 |
|--------|-------|------|----|--------------------|
| 當山 楓菜 | 九州 | 沖縄県 | 16 | 沖縄県 FID バスケットボール連盟 |
| 遠山 心 | 東北北海道 | 北海道 | 20 | SAPPORO RISE |
| 徳山 未来* | 東海北信越 | 愛知県 | 21 | 豊田クラブ |
| 奥原 彩花* | 中国四国 | 山口県 | 19 | TAC 田布施アスレチッククラブ |

*2025 年度強化指定選手



7. 全体スケジュール

| TIME | 9月19日（金） | 9月20日（土） | 9月21日（日） |
|-------|----------------|----------|------------|
| 6:00 | | シューティング | シューティング |
| 6:30 | | | |
| 7:00 | | 朝食 | 朝食 |
| 7:30 | | | |
| 8:00 | | 準備 | 準備・選手面談 |
| 8:30 | | | |
| 9:00 | | 練習①開始 | 練習④開始 |
| 9:30 | | | |
| 10:00 | | | |
| 10:30 | | | |
| 11:00 | 会場設営 | | |
| 11:30 | | 練習①終了 | 練習④終了・会場撤収 |
| 12:00 | | 昼食 | 昼食 |
| 12:30 | | | |
| 13:00 | 集合（JR清水駅） | | |
| 13:30 | 会場着 | | |
| 14:00 | フィジカルチェック・身体測定 | | 解散（JR清水駅） |
| 14:30 | | 練習②開始 | |
| 15:00 | 全体ミーティング | | |
| 15:30 | W-up・マルチステージ測定 | | |
| 16:00 | | | |
| 16:30 | シューティング | 練習②終了 | |
| 17:00 | 練習終了 | | |
| 17:30 | | | |
| 18:00 | 夕食 | 夕食 | |
| 18:30 | | | |
| 19:00 | | | |
| 19:30 | 講義開始 | 練習③開始 | |
| 20:00 | | | |
| 20:30 | 講義終了 | 練習③終了 | |
| 21:00 | ケア・入浴 | ケア・入浴 | |
| 21:30 | | | |
| 22:00 | | | |
| 22:30 | | | |
| 23:00 | 就寝 | 就寝 | |

普 及 育 成 担 当
理 事 吉 田 通 子

【全体総括】

はじめに、本年度事業計画のひとつである「強化指定選手発掘事業 2025 フレッシュマンキャンプ」について、予定どおり9月19日（金）から9月21日（日）の3日間にかけて、清水ナショナルトレーニングセンターにおいて実施し、大きな事故もなく無事に終了したことを報告する。

本年度より、参加を希望する選手に対して選考の目安を設定し、参加者の能力が概ね横並びの状態でスタートするように準備を行った。その結果本年度は、全国のブロックから男子12名、女子2名の選手が参加し、現役の日本代表選手男子1名、女子2名を合わせての実施となった。

本事業の目的である「次世代の代表選手を発掘する」ために、①社会性②体力・筋力③フィジカル④個人のファンダメンタル⑤チームファンダメンタル⑥個人スキル⑦IQ⑧個人の考え方の要素が世界基準、または経験を積み努力することによって、それに準ずるレベルに到達するか否かを評価した。

初日はメディカルチェックと体力測定（マルチステージ）を実施したが、男子に於いてはほとんどの選手が良好な結果を残した。夜間の部においては、現日本代表の渡辺 棺（わたなべ りょう）選手にご協力をいただき、男子ヘッドコーチ小川氏との対談形式で、先の6月に開催された Virtus 主催の世界選手権を振り返りながら、日本代表とはどのようなことが必要で、どのような姿勢が求められるのか等について話を伺った。これについては、我々スタッフにおいても改めて学びとなる内容であり、今後も彼の活躍を期待したいところである。二日目以降はスキルチェックを行い、先に述べた代表としての資質に加え、コミュニケーション能力のレベルを確認した。

男子・女子ともに個人及びチームファンダメンタル（基礎）が十分ではなく、多くの選手が世界基準とは判断できなかった。このことについては、各ブロック委員にも共有いただき、各所属チームへ報告のうえ、所属チームのヘッドコーチ及び関係者に対し、日々のトレーニング管理が最重要であることを伝え、その点についてご理解いただき、共に協力し合いながら育成事業を遂行したい所存である。

短期間で実施するキャンプとはいって、日常とは違う空間の中で、個々の目的を達成するため日々は、この時点に至るまでの選手及び選手の関係者の準備と取り組みによって、得られる内容も異なると考える。今回の結果を真摯に受け止め、参加した選手及びその関係者の皆様には、さらに前進していただきたいと思う。

最後に、清水ナショナルトレーニングセンター関係者の皆様をはじめ、日頃よりご支援及びご協力いただく皆様に対しまして、無事に事業が完了しましたことを心から感謝申し上げます。



男 子 代 表 チ ー ム
ヘッドコーチ 小 川 直 樹

【男子総括】

全国6ブロック並びに代表コーチ等からの推薦により、男子12名が今年度のフレッシュマンキャンプに参加をした。一部現役代表選手が加わっているが、若年層の選手であり、今年度は世界選手権が開催

された年であることから、通常より強化合宿が1回少なく、現状確認を行うために特別に召集をした。

実施内容は例年と同様な形で行われ、初日にメディカルチェック及びデータ測定。2日目以降は実戦形式が主となったが、全体スケジュールにも記述されている通り、朝から晩までバスケットボールに取り組める最高の環境の中で有意義な時間を過ごし、選手にとっては貴重な経験となったに違いない。初日の夜には講義を行い、「代表チームの活動説明」、「世界選手権時の映像視聴」、そして「現日本男子代表キャプテンの渡辺選手の講和」とボリューム感満載の内容となった。視覚的に捉えることや、長年日本のトッププレイヤーとして活動している渡辺選手の話を直接聞き、選手自身はイメージがし易く、且つ関心度が高まったように見えた。

今回参加をした選手の大半が競技歴はある程度長いものの、経験値が少なく、実際にコートの中で行われるパフォーマンスとしては高くなかったという印象を持った。走る、飛ぶ、止まる、放る、当たる等、選手自身が基本的動作の細かな部分を把握できていないこともあり、都度説明が多くなった。また股関節や肩の関節周りも硬く、柔軟性に欠ける選手も存在した。そして状況判断が想像以上に鈍く、各自が状況確認するために自分の目で見るという習慣が無く、常に感覚でプレイする選手が多く、ミスが目立った。然しながら、指導を受けたことを吸収しようとする意識は高く、実践しようとする意欲は評価に値する。このようにトライアンドエラーを繰り返し行うことで、一步前進が出来る。

現代表チームでも伝えているが、成長するためには土台作りをきちんと行うことが重要である。その土台の面積が広ければ、様々な技術や戦術を上積みすることができる。然し、土台の面積が狭ければ、上積みすることは非常に困難である。従い、日々の努力が必要となり、土台の面積を増やす必要がある。

今回はファンダメンタルの重要性を都度選手に伝えているため、所属チームでもそのような取り組みをして頂ければ非常に有り難いと思うと同時に、土台が出来れば必ずや選手の成長に繋がると信じている。疎かになりがちな部分を徹底して行うことが出来る選手が代表チームでも活躍出来ているのは紛れもない事実である。

今回もチームの指導者や保護者の方々が多く練習見学されたが、代表チームとして選手に求めるものは所属チームとは全く異なるものだと感じられたかと思う。国からの強化費や、スポンサー各社からの協賛、また多くの団体、個人の方々の心温まるご支援を賜り、我々の活動が成立している状況にある。日本代表としての「責任」・「プライド」・「感謝」を持つことは選手もコーチングスタッフも必須条件である。ミーティングでも選手に伝えたが、「やって貰って当たり前」という感覚は我々の代表チームでは通用しない。常に謙虚な姿勢で感謝の気持ちを持ちながら活動せねばならないということは覚えておいていただきたい。

今回のキャンプを経験し、プレイヤーとして、また人として更に成長されることを期待すると共に、来年度代表チームに召集される選手が1人でも多く選出されることを願いたい。



2025年度 フレッシュマンキャンプ 講義資料



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
強化委員会

2025年度 男子日本代表チーム

【チームスタッフ】

| 氏名 | 役職 | 都道府県 |
|--------|--------------|------|
| 原 美子 | 強化責任者 | 福島県 |
| 小川 直樹 | ヘッドコーチ | 神奈川県 |
| 吉田 直樹 | コーチ | 神奈川県 |
| 工藤 義教 | コーチ | 新潟県 |
| 大川 達也 | コーチ | 北海道 |
| 宮崎 伸一 | チームドクター | 東京都 |
| 鶴巣 広大 | アスレティックトレーナー | 東京都 |
| 山崎 美和子 | トレーナー | 静岡県 |
| 杉本 将 | トレーナー | 静岡県 |
| 海野 祐生 | トレーナー | 静岡県 |
| 原田 彰加 | スポーツナース | 静岡県 |
| 大沼 弘法 | チームオペレーション | 東京都 |
| 吉田 朋代 | チームオペレーション | 神奈川県 |
| 氣賀 陽介 | チームオペレーション | 東京都 |
| 岡 圭士 | チームオペレーション | 神奈川県 |
| 吉田 通子 | サポートスタッフ | 福岡県 |

【選手】※2025年度日本パラリンピック委員会強化指定選手登録済み

| 氏名 | 所属チーム | ポジション | 年齢 | 身長 | 都道府県 |
|-------|----------------------|-------|----|-----|------|
| 高山 晃 | YOKOHAMA MAJORS | SG | 34 | 181 | 神奈川県 |
| 渡辺 梢 | TAMA OTP | PG | 26 | 179 | 東京都 |
| 根津 友和 | TAMA OTP | SG | 27 | 172 | 東京都 |
| 末木 健翔 | HEROES | SG | 24 | 177 | 福岡県 |
| 草駒 天晴 | ブルーホーク | SF | 25 | 180 | 宮崎県 |
| 鷹崎 翔流 | OKSフェニックス | SG | 25 | 169 | 北海道 |
| 中嶋 高志 | HEROES | C | 25 | 191 | 福岡県 |
| 山本 哲平 | NANIWARS | SG | 18 | 174 | 大阪府 |
| 鶴澤 悠太 | SAPPORO RISE | PF | 18 | 183 | 北海道 |
| 東明 一咲 | AST | SF | 16 | 188 | 神奈川県 |
| 中野 羽琉 | 新潟ライジングサンズ | SG | 17 | 172 | 新潟県 |
| 横山 悠太 | SAGA FID バスケットボールクラブ | PF | 18 | 180 | 佐賀県 |

○ 2025 Virtus 世界選手権派遣メンバー（スタッフ4名、選手8名）
派遣期間：2025年6月9日～6月24日 カザフスタン・アスタナ

- 2 -



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



2025年度 男子日本代表チームの取り組み(一部抜粋)

○ 質の高いトランジションバスケットボールの展開

○ FG%の向上(個人課題／チーム課題)

○ 複数のディフェンスを駆使(相手を混乱させる)

○ 「負けてたまるか」という強いメンタリティの保持

目標

目的
2025 世界選手権でメダル獲得

- 4 -



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



日本代表選手として求められるもの

1. 自己管理の徹底

基本的に、自分でやるべきものは自分で行う。

自分の身体は自分で守る。(ex:アンチ・ドーピング)

2. 常に感謝の心を持つ

「やってもらって当たり前」という考え方では通用しない。

「ありがとうございます」という感謝の言葉を口にする。

- 6 -



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



強化指定選手発掘事業 フレッシュマンキャンプとは…?

次世代の日本代表選手を発掘することを目的として、

・全国6ブロック(北海道・東北・関東・東海・北信越・近畿・中国・四国・九州)

・日本代表チームコーチ、監督者

からの推薦を受けた選手につき、強化委員会の会議を経て招集し、キャンプを実施する。

日本代表チームのコーチたちが、多角的な観点(フィジカル、スキル、コミュニケーション能力、成長の可能性等)で選手を観察し、総合的に評価が高い選手は次年度、日本代表チームへの招集を検討する。

→招集した際は日本パラリンピック委員会へ強化指定選手としても登録することになる。

- 1 -



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



今後に開催が予定されている国際大会一覧

2026 Virtus Asia-Oceania Games

タイ(バンコク)

2027 Virtus Global Games

エジプト(カイロ)

2028 Virtus Regional Games

2029 Virtus World Basketball Championships

2030 Virtus Regional Games

2031 Virtus Global Games

2032 パラリンピック

オーストラリア(ブリスベン)

- 3 -



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



2025 Virtus World Basketball Championships

#5 渡辺 梢 選手

| | | |
|----|-----------|-------|
| 2P | 15本 / 30本 | 50.0% |
| 3P | 9本 / 21本 | 42.9% |
| FG | 24本 / 51本 | 47.1% |
| FT | 17本 / 21本 | 80.0% |

/全5試合



日本代表チーム合計(8名)

| | | |
|----|-------------|-------|
| 2P | 113本 / 290本 | 39.0% |
| 3P | 38本 / 140本 | 27.1% |
| FG | 151本 / 430本 | 35.1% |
| FT | 83本 / 135本 | 61.5% |

/全5試合



一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability





子代表チーム
コーチ 吉田直樹

【報告】

昨年度に続いての活動となったフレッシュマンキャンプ2025、今年度は男子12名、女子4名の参加となり男子については17歳～25歳までの若手選手が各地区から集まつた。高校生であつたり、この様な集団生活での環境に慣れていないことが前もって予想されていたことから施設側にもご協力いただき、食事面については事前にアレルギーの確認等を実施し受け入れ態勢についても整備を実施した。また、今回は一部の現代表選手の参加もあったが、代表選手にとって必要なスキル、取り組む姿勢など、キャンプ参加者にとっては生で感じることができ非常に良い取り組みであったと感じた。

今キャンプは2泊3日で実施したが、バスケットボールに打ち込めるような環境での経験がある選手は当然おらず、参加者にとってはとても有意義な機会になったと考える。

フィジカルやバスケットボールの面においても慣れないトレーニングやドリルに懸命に取り組む姿が印象に残ったが、全体的に基礎的なトレーニング等は日頃取り組めていないように見えた。

バスケットボールの面においてもやはり基礎的な知識・スキルはまだまだ選手が多く、継続してこの様な活動を実施し裾野を広げていく事が必要であると感じた。私自身はビッグマンを担当し、ゴール付近でのボールの扱い方、体の使い方をレクチャーし今後自身のチームに帰っても継続して取り組んで欲しいということを伝えた。

このキャンプを通して伝えられたこととして主に「バスケットボールは習慣のスポーツ」、A代表でも毎度伝えている事だが、やはりキャンプの時だけ取り組んでも成長は見られない。日頃からの積み重ねが重要であることをこのキャンプを通して少しでも感じ、自チームに戻った後でも取組むことで、このキャンプの意義も大きくなってくる。また中にはA代表に招集し現代表メンバーに対し危機感を持たせる意味でも参加を検討しても良い選手がいたため、次世代の発掘もテーマとなっていることから継続して本活動を行っていきたいと感じる。



男子代表チーム
コーチ 大川達也

【報告】

今年度のフレッシュマンキャンプは現代表選手2名を含む計14名（男子）が参加した。初日はメディカルチェックを実施した。マルチシャトルランでは参加選手の平均記録が約101回であり、その中で130回を超える選手もいた。その後、シューティングを行つたが、ミートやキヤッティングなどファンダメンタルに課題を抱える選手が多かった。各要素は一見細かい部分に思えるが、これらの習得度合いがバスケットスキルの向上に直結する。参加選手には自チームに戻り、取り組み方を改善し実践することを求めたい。

夕食後、男子選手は小川ヘッドコーチから現代表チームの取り組みや求める選手像についての講義が行われた。講義中に、今年6月に開催された世界選手権の映像を見ながら、日本チームが磨いているプレイや海外の大型選手を相手に体を張つて攻守を行う場面をダイジェストで視聴した。選手にとっては

具体的なイメージを持ちやすい内容だったと思う。現代表チーム主将の渡辺からは、代表選手として必要な力について実体験を基にした講話があった。実際に代表チームで活躍している選手の言葉は、大きな影響を与えたに違いない。

3日間を通して、これまでバスケットボールに専念できる環境を経験した選手はおらず、参加者にとって有意義な機会になったと同時に、集団生活の大変さや自分を表現することの難しさなど社会生活に繋がる経験の場となった。

フィジカル面では、トレーニングやドリルに懸命に取り組む姿は見られたが、全体的に基礎的なトレーニングやドリルに対する理解が浅く、日常的にただ行っている様子が目立った。止まる、支える、耐えるなどの基本的動作だけでなく、バスケットに必要な姿勢づくりも全体的な課題であった。

バスケット面では、基礎的な知識やスキルに課題のある選手が多かった。今回の合宿で学んだことを継続して取り組むことで、参加選手自身が大きく成長し、各チームのスキルレベルが着実に向上することを期待したい。



日本女子代表チーム
ヘッドコーチ 一松倫子

【女子総括】

今回のフレッシュマンキャンプから、各ブロック委員が選手を推薦する際の目安を提示し、かつ事前に日常生活やバスケットボールの活動に於ける環境など、選手の情報を共有した上で推薦され、実施することとした。次世代の選手の発掘を目的としているが、代表スタッフからの評価が高くても Virtus の選手資格に適さず、断念せざるを得ない事例があった。そのことを踏まえて、フレッシュマンキャンプから代表選手に召集する際の評価にも登録項目を加え、技術のみならず、慣れない海外での食事や過ごし方にも対応できる力があるかなど、今後を見据えた評価の仕方も整えていきたいと考えている。

女子は2名の選手が推薦され、6月の世界選手権に派遣をしなかった2名の現代表選手と併せ4名の参加となった。参加選手の一人は昨年のフレッシュマンキャンプにも参加をしており、代表選手を目指してこの1年間課題に取り組んできた。もう一人の選手は女子では初めて北海道からの参加であり、これから代表チームの活動に興味関心を示す選手がふえることを期待するところである。

6月に開催された世界選手権では3人制に加えて5人制のカテゴリーが実施され、オーストラリアチームのみ両カテゴリーにエントリーし、それぞれメダルを獲得した。日本では女子選手の増員が以前よりの課題であるが、両カテゴリーにエントリーするだけの選手を獲得できていない状況である。代表チームスタッフが各ブロック委員との連携を図り、各地の連盟が行う事業に足を運んだりするなど、より一層の努力をして、選手の発掘・獲得に力を入れていかなくてはならない。

最後になりますが、清水ナショナルトレーニングセンターの方々には慣れない合宿に参加する選手に対し食事や使用施設面で支えていただき、充実した合宿をすることができました。

ありがとうございました。



日本女子代表チーム
コーチ 花輪 希美圭

【所見】

今回はフレッシュマンキャンプに参加した2名、現代表メンバー2名に協力してもらい計4名で行った。代表選手はもちろんだが、フレッシュマン対象選手からも今回の合宿やバスケットに対する強い気持ちを感じられ、少ない人数ながらも実りある練習を行うことができた。

フレッシュマンキャンプということで、狙いは昨年同様3×3競技の体験を通してルールを理解する、5人制との違いを実感する、自分の強みや課題を知ることとした。ルールについては、2名ともすぐに理解し取り組むことができた。また、実践を通して5人制とは異なるセオリーや切り替えの速さの重要性に気づくことができた。現代表メンバーと一緒に活動することによって、その違いを実感することもできたと感じている。言われたことを実践しようとする姿勢は評価でき、今後更なる成長が期待される。

【課題】

まずは体力である。5人制よりも休む時間がなく、きついということは選手も実感したところだと思うが、そのきつい中で厳しくディフェンスすること、一人一人がルーズボールやリバウンドに手を抜かないことが必要である。ランニングで長い距離を走れる体力だけでなく、瞬発的な動きを続けられるように、合宿中に話があつた心拍数を上げた中で身体を動かすようなトレーニングを取り組んでほしい。

また、所見でも記述したが、代表選手と一緒に活動することを通じて、切り替えや判断の速さが課題として感じられた。3×3の場合、5人制よりも速く判断し、次の準備することが求められる。ディフェンスへの切り替えが1～2秒遅れるだけで相手の得点に結びついてしまう。これについては3×3の実践がある程度積み重ねることも必要となってくる。地元のチームにも協力していただき、3×3を実践する機会を作って頂ければと思う。

終わりに、今回も合宿実施にあたって、清水ナショナルトレーニングセンターの皆様に多大なるご協力、ご配慮をいただきました。早朝から夜遅くまで快適な環境で練習ができましたことに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本代表チーム
トレーナー 山崎美和子

【所見】

キャンプ実施期間中の3日間で体調不良・負傷での完全離脱はなく、全参加選手が最終日まで練習に参加することができた。

初日のコンディションチェックにて、持病、負傷歴のみの確認だけではなく、睡眠時間や質、食事がどれているか、また緊張度など総合的に選手の情報収集を行い、スタッフ間で共有をした。

男子選手では初日のマルチステージ前に両足底が攣った選手があり、水分補給・ストレッチ後に回復し、その後は参加可能であった。2日目の午前中に同選手が大腿部の打撲にて一時離脱したが、圧迫、

アイシング後テーピング下にて練習参加可能、最終日までテーピング対応にて練習参加している。

女子選手では持ち込みの負傷が1件あったものの練習にはテーピングにて参加可能であった。コンディションチェック時に緊張で食事が取れていない選手があり、合宿期間中も食事量は十分に取れていなかった。2日目の午後に気持ち悪さを訴えるが、安静指示後自ら練習に参加、その後訴えはなかった。

本合宿では男子は夜のケアは行わず、シーティング時に時間を割き、セルフで出来るエクササイズ、ストレッチの指導を行った。内容としては股関節、足関節の可動域拡大のエクササイズ、ストレッチを実施。選手によっては上手く動かせない選手もいたが、ほとんどの選手が自身で動かしている感覚が掴めていたようであった。女子は持ち込みの負傷がある選手のみケア対応したが、練習によっての痛みの増強はなく、最終日には痛みは軽減していた。

【感想】

全体的に今回の参加者の身体能力、体力要素は高いように感じた。また実施したエクササイズやストレッチについて質問をしてくる選手や、練習前にストレッチやウォーミングアップを行うなど自発的な行動も見受け取ることができた。

身体を上手に動かせることが怪我予防になること、パフォーマンス向上に繋がるということ、そして食事・睡眠の大切さを伝えたが、この合宿を機に日頃から意識して取り組んで欲しいと願う。



2025 年度 FID 日本男子・女子代表チーム

サポート企業・団体・サポーター様

株式会社 デンソー 様

株式会社アイズ・カンパニー様 株式会社サトー様

株式会社 FIELD MANAGEMENT STRATEGY 様

株式会社 笹森様

株式会社 GRACE 様 株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社誠行社様 株式会社 EIGHTIST 様 わだ薬局様

株式会社エイトダイニング様 株式会社富士山ドリームビレッジ様

株式会社サンシップ様 山崎自動車様

株式会社ほけんの 110 番様 株式会社田辺電業社様

横浜税理士法人様 フォーカス株式会社様 ナトリ電設株式会社様

株式会社ファントウワーク様 株式会社ジャパン・スリーブ様

株式会社 TOKI MENTAL 様 有限会社ベルセブン様

株式会社ヒライ様 酒と肴さえぐさ様 宮惣ケミカル株式会社様

株式会社 CIS 様 株式会社 TLH 様

ヒーローズスポーツコミュニティ株式会社様 有限会社マルヤスポーツ様

株式会社凸様 合同会社寿老人様 秋葉原補聴器株式会社様

NPO 法人チームふくしま様 株式会社アルバ様 ムーングローダイナー様

株式会社ホンダモビリティ北海道 白石本通店様

石上 岳彦様 中村 一雄様 野田 悟様 須藤 昭宏様 須藤 昂矢様 杉本 正毅様
中村 昭男様 松尾 直哉様 山田 謙治様 折笠 常弘様 山崎 千賀司様 藤井 純様

伊勢 徹様 辻 由美様 高橋 徹様 蟹川 稔様 野崎 龍華様 和田 洋幸様 鶴谷 浩之様 大野 敦史様

笹森 勝義様 前田 陽介様 草山 堅吾様 中山 克良様 中島 正雄様 南原 勝一様 小林 千夏様 岩村 浩人様

鶴岡 将文様 大村 亜理様 川口 正高様 川口 美樹様 角田 正博様 森本 和朗様 小森 健太郎様

大塚 一義様 奥野 智佐之様 中山 克良様 足立 哲哉様 鈴木 雅人様 富田 順也様 小玉 隆史様

卯木 葉子様 小林 千夏様 武ノ内 由紀子様

多大なるご支援ご声援、連盟一同感謝申し上げます

